2022-2023 年度 RI テーマ

第 2780 地区　ガバナー
佐藤　祐一郎

第 3 グループガバナー補佐
永松　秀行

イマジン
ロータリー

Rotary

2022-2023 年度
藤沢ロータリークラブ週報

■創　立　／　昭和 29 年 6 月 3 日　　■第 68 代　会長　／　廣島　純　　幹事　／　鈴木　大次
■事務所　／　藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204　TEL：0466-25-4000　FAX：0466-26-9292　E-mail：info@fujisawa-rotary.com
■例会日　／　毎週水曜日 12:30～13:30　　■例会場／　湘南鎌倉クリスタルホテル TEL：0466-28-2111

NO.25　第 3283　例会　２０２３年　２月　１日　天候　晴れ

国家「君が代」
ロータリーソング「我らの生業」
「四つのテスト」　　椋梨　兼彰　会員

≪ゲスト・ビジターの紹介≫

卓話ゲスト：齋藤　隆　様
（横須賀海洋・IT 教育の会/横須賀 RC）
（紹介者：椋梨　会員）
北村　理和子　様
（2021－22 年度第 1 G ガバナー補佐/横須賀 RC）
（紹介者：椋梨　会員）
ビジター：中野　義博　様（東京南 RC）

≪ZOOM 出席≫

崎山　直夫　会員

≪会長報告≫

・2 月になりました。梅もほころび始めましたが、学生さんには大変な季節となりました。
昨日、当クラブ推薦の交換学生　吉田芽衣さんとお会いしました。至急 RI に提出する書類にクラブ会長のサインが必要ということで、事務局に来ていただきました。ロータリーの正式書類なので、ブルーインクでと注意書きがあり、青いインクでサインしました。英語でサインすることなどめったにないことでした。
吉田さんが青インクのペンを用意してきてくださて、心配りのできる方で流石だと思いました。
今年の 9 月から現地フランスの学生生活が始まることをとても楽しみだと笑顔で話してくれました。まだ留学先の土地について、知らされてないそうですが、不安げな印象は全くなく、ワクワクしている様子でした。世界情勢不安定な中ですが無事に国際交流、学生生活を存分に楽しんでこらるようお祈りしたいと思います。
本日は、安全保障に造詣の深い齋藤様にお話をうかがいます。青少年交換候学生を見送る立場としても厳しい現実があるのではないかと思います。
本日は長めに時間をとって、詳しいお話をしていただきます。よろしくお願い致します。

≪幹事報告≫

・入会 3 年未満の会員に 2 月 18 日の第 2 回新会員の集いについてご案内しております。ご出欠お知らせください。会費はクラブ負担です。

出席報告　（　　）内は計算に用いた会員数
＋〔　〕は Zoom 出席者

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メークアップ会員数	修正出席者数	修正出席率
1 月18日	44(41)名	27名	14名	65．85%	1名	28名	68．29%
2月1日	44(42)名	29＋1〔12〕名	12名	71．43%			

≪スマイル報告≫

齋藤　隆　様（横須賀 RC）

今日はお招きいただきありがとうございます。

期待にそえるかわかりませんが？

北村　理和子　様（横須賀 RC）

横須賀 RC 北村と申します。

本日の卓話者　齋藤様のお供で参りました。一緒に勉強させて下さいます様、よろしくお願いいたします。

廣島　純　会長

齋藤隆様、北村理和子様、本日の卓話よろしくお願いいたします。

中野様、ようこそ。

椋梨　兼彰　会員

齋藤様、北村様、中野様、本日は藤沢 RC へようこそ。

齋藤様、卓話楽しみにしております。

鈴木　大次　会員

横須賀 RC 齋藤様、北村様、本日はありがとうございます。宜しくお願い致します。

東京南 RC　中野様ようこそ

≪卓話≫

平和と紛争予防/解決月間　卓話

「2022 年を振り返り、

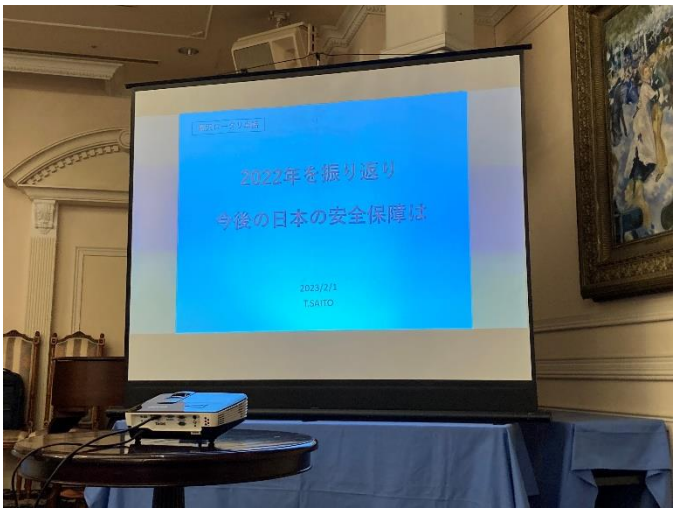
今後の日本の安全保障は」

横須賀海洋・IT 教育の会 会長

（元自衛隊統合幕僚長）

齋藤　隆　様（横須賀 RC）

（紹介者：椋梨　兼彰　会員）



1　はじめに

2014 年のロシアによるクリミヤ半島併合は典型的なハイブリッド戦の成功例だと言われている。ハイブリッド戦とは平時でも有事でもないグレーな事態において本格的軍事侵攻に至らないよう意図的に、軍事・非軍事の多様な手法を組み合わせて行われる戦いをいう。

2　今回のロシアのウクライナ侵攻の教訓を紐解く

米英は、2014 年のクリミア併合以来、ウクライナに各種の軍事支援を行うとともに、特にサイバー防衛能力を向上させるための大規模な支援を行う等ハイブリッド戦に対するウクライナの強靭性を高めるための支援を積極的に行ってきた。

2021 年夏以降のロシア側の動きを見て、その支援を一段と速めた。それが功を奏す形で、ウクライナはロシアとのハイブリッド戦に効果的に対処することができた。

本格的軍事侵攻に対応出来る能力も重要であるが、グレーな事態におけるハイブリッド戦に対応出来なければ、ウクライナはクリミヤの二の舞を踏み、初戦の段階で敗北したものと思われる。

●米国による積極的情報開示と発信

米国はロシアによるウクライナへの様々な攻撃を想定して、欧州各国などと連携した外交、経済、軍事など幅広い対策を検討しロシアの様々な「偽旗作戦」に対して、本来なら機密性の高い情報を次々と開示してロシアの先手を打つという情報開示作戦を実施した。従来米国はその情報について、あまり外に出さないという方針であったと思われるが、今回は積極的に情報を開示、発信しそれが西欧諸国の速やかな結束を高めるのに役立った。

●米民間企業のサイバー防護支援
米サイバー軍の部隊とともに米国の民間企業技術者がウクライナに送り込まれ、予想されるロシアのサイバー攻撃に対する対策を講じた。侵攻前 12 月には米英両国の情報機関と軍特殊部隊の混成チームがウクライナに派遣され、ウクライナ政府要人の身辺警護、ウクライナ国内の心理戦、国外からの武器搬入の準備を開始したとも報じられている。
●国家重要情報の国外退避
侵攻前の 2 月 17 日、ウクライナの国会は政府系機関のデータを専用のサーバーからパブリッククラウドに移行することを許可する「データ保護法」を改正し、政府の重要なデータを欧州各国に退避させた。その結果侵攻後のミサイル等のデータセンターへの攻撃から重要データを保護できたと思われる。
●国際社会への迅速な情報発信
　ロシア軍によるキーウ州の熾烈な攻撃の中にあって、ゼレンスキー大統領のコメントがなぜ国際社会に発信が可能であったのか。ロシアは 2022 年 1 月頃から侵攻の 2 月 24 日までの間に第 3 波にわたってサイバー攻撃を実施していたようであるが、2014 年のクリミア侵攻時とは異なり、ほとんど失敗したようである。その理由は、

- 欧米がサイバー防御を相当支援していたものと思われること。
- 早期に米国民間会社の低軌道衛星ネットワーク（米国・スペース X 社の衛星回線「スターリンク」）を使用することが可能となったこと。

島国日本は世界とのつながりが海底ケーブルへの依存が高く、その分散化には限界がある。衛星回線の確保を念頭に置き世界とつながるインターネット回線の確保が重要である。
●偽旗作戦の封じ込め
ロシアから発信される擬情報について注目が集まった、相手からの各種擬情報に対して先手を打ち、それが間違っていることを国民、国際社会に発信していく態勢の構築が重要である。
●民間情報の有効活用
Google の渋滞情報を利用してロシア軍の戦車の車列が渋滞しているという情報を利用し、それに対して攻撃をするような事案が見られた。この様に民間が保有する各種情報をいかに活用するかというのも重要な視点だと考える。
●高価な兵器と安価兵器の融合
無人機いわゆるドローンの活躍が注目を浴びている。ミサイルのような高価な兵器とドローンのような比較的安価な兵器、それぞれ持つ情報をクラウド上で共有し、武器使用の最適化を図っていくことが重要である。
●米国の強さと、それを行使する意思のふらつき
米国の国力の強さ、特にその情報に関する能力は半端ではないと思っている。一般的には米国の力が弱まっていると言われるが、私は決してそのようには思っていない。課題は事態が生起したときに米国の国家意思がまとまるのか、その視点にたてば相手国は米国の国家意思に揺さぶりを掛ける戦略をとるのではないか、同盟国としてもそれに対応できるように、米国と連携を一層強化する必要がある。

３　日本の安全保障への影響は

●ロシア

- **不安定化に向かう中央アジア**

今後ロシアは軍事的にも。経済的にも。その国力は落ち込むと思われる。そういう中にあって中央アジアへの影響力は低下することにより本地域の不安定化が今後懸念される。

- **弱体化しても核大国であり続けるロシア**

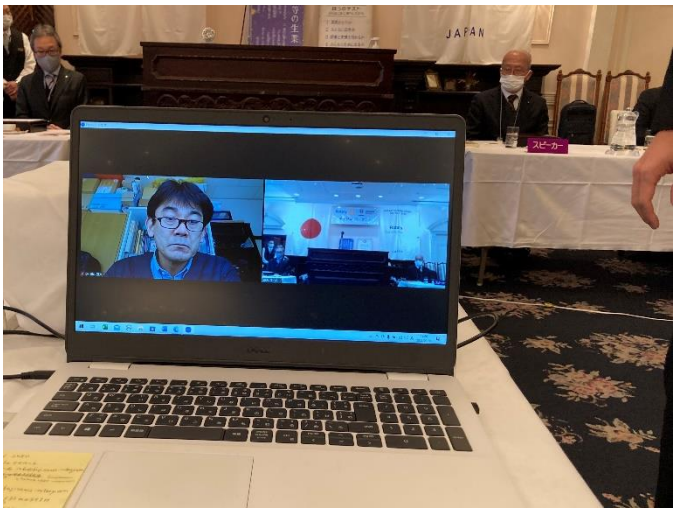
陸軍力及び経済力の面で弱体化が避けられないロシアであるが、海軍戦力の損耗は軽微であり、核戦力は無傷で残っている。今後ロシアが国際的な影響力を行使しようとする上で、これらの力を最大限有効に活用しようとする可能性は高い。
●中国
中国は今回の事案を見ながら、どのようなことを学ぶだろうか。　米国の底力とその意思のふらつきという視点から見れば、米国を介入させないように、自国の国益を増進させることを考えていると思う。すなわち米国の意思決定に影響を与える、巧妙なハイブリッド戦を仕掛けると思っている。日本としては、中国からの日米離反を目的としたハイブリッド戦への対応能力を強化し、日米の連携が崩されないようにすることが最重要であると考えている。

・台湾の戦略的重要性と台湾有事は日本の有事
台湾島は日本にとって地理的に極めて重要な位置にある。例えば台湾が中国本土に併合された場合中国は巨大な不沈空母を本地域に持つことになる。
また、台湾の有事は対岸の火事では済まされない、まさに日本の有事であることを考えておく必要がある。
・尖閣問題におけるハイブリッド戦
米国は尖閣諸島が安保条約第５条の適用範囲に含まれる旨を宣言しており、単独事案としての武力攻撃事態は抑止される可能性が高いと考える。喫緊に対応すべき問題はグレーゾーン事態におけるハイブリッド戦である。
例えばサイバー攻撃等によって、現場と中央の指揮通信を混乱させ、それに乗じて国際社会に自己の正当性を発信するとともに、既成事実化を図ることが考えられる。指揮通信系へのサイバー攻撃の対応能力及び日本としてのリアルタイムの国内外への情報発信能力を強化する必要がある。
また海保と海自の法執行レベルの連携要領についても深掘りをしておく必要がある。
●北朝鮮
ウクライナが核を保有していれば侵略を防げたと、中小国の核兵器保有の有効性を直ちに一般論として導き出すことは適切ではない。しかし北朝鮮の独自の解釈から核の有効性を一層確認したと思われる。
また通常兵器の劣勢を補うためにも核開発と運搬手段であるミサイルの開発に一層集中すると思われる。
そして自己の核戦力が米国の介入を抑止できると誤認（現実の核抑止は簡単にできるものではない）した場合には韓国や日本に対する通常あるいは核ミサイル攻撃というカードを使って政治的生き残りを図る可能性は否定できず注意が必要である。
当然このような事態にならないように、米国の核抑止の信頼性向上と日米韓連携の一層の強化が重要である。

４　終わりに
昨年度の１２月に国家安全保障戦略の第二回目の改訂がなされた。その中で『外交力、防衛力、経済力、技術力、情報力を含む総合的な国力を最大限活用して、国家の対応を高次のレベルで統合させる戦略が必要だ』」と述べている。
今この厳しい国際環境の荒波を乗り切るためには、単に平時、有事の二元論から脱却し、有事に至るまでのグレーな事態でのハイブリドな戦いに、いかに有効に対応するかが重要である。
その中でも特にサイバー防衛の重要性は益々高まっている。そのためにはあらゆる機関がストーブパイプ的発想から脱却し、産官学が連携し国家総合力が発揮出来る枠組みの構築が求められている。

椋梨会員より、齋藤様のご紹介
椋梨会員は、自衛隊の訓練に参加していらっしゃるそうです。

齋藤様へ会長より謝辞



ZOOM 出席　崎山会員

横須賀 RC　北村様　ようこそ

本日のお料理

東京南 RC　中野様　いつもありがとうございます